

第2節 ルールの参考、ママ友との話題

メディアの使用ルールについて、どのように決めるのかについては、「配偶者の意見」「特ない」「ママ友・先輩ママの意見」という順で参考にしていた。2013年よりどの項目も減少し、「特ない」が増加していることから、ルール決めに対する意識が薄らいでいる可能性がある。

●親子のデジタルメディア使用のルールを決めるときに参考にすることは、配偶者やママ友・先輩ママの意見から判断することが多いが、「特ない」が増加しており、ルールを決める際の参考への意識が薄れている

子どもがデジタルメディアを使用するときのルールを決めるのに何を参考にしているのだろうか。参考にしているもの全てについてたずねた。結果をみると(図2-2-1)、多い順に「配偶者の意見」が50.1%、「特ない」が32.7%、「ママ友・先輩ママの意見」が20.6%であった。2013年と比較すると若干異なっており、2013年に多かった「自分の経験から判断」41.4%は、今回16.6%で4番目となっている。その他、人からの情報では、「自分の親の意見」15.4%、「幼稚園の先生や保育士の意見」5.0%も少數ではあるが参考にしている。2013年より全体的に参考にする比率が低くなっているものの、人の話からの情報が依然多いととらえることができる。

紙媒体の情報では、「育児雑誌」が9.1%と多く、「書籍」4.0%、「医院・診療所などに貼られているポスター」3.6%と続いている。2013年と比較すると、多かった「育児雑誌」が30.7%からかなり減少し、9.1%となっている。「新聞・雑誌」も14.5%から1.5%へ大幅に減少している。

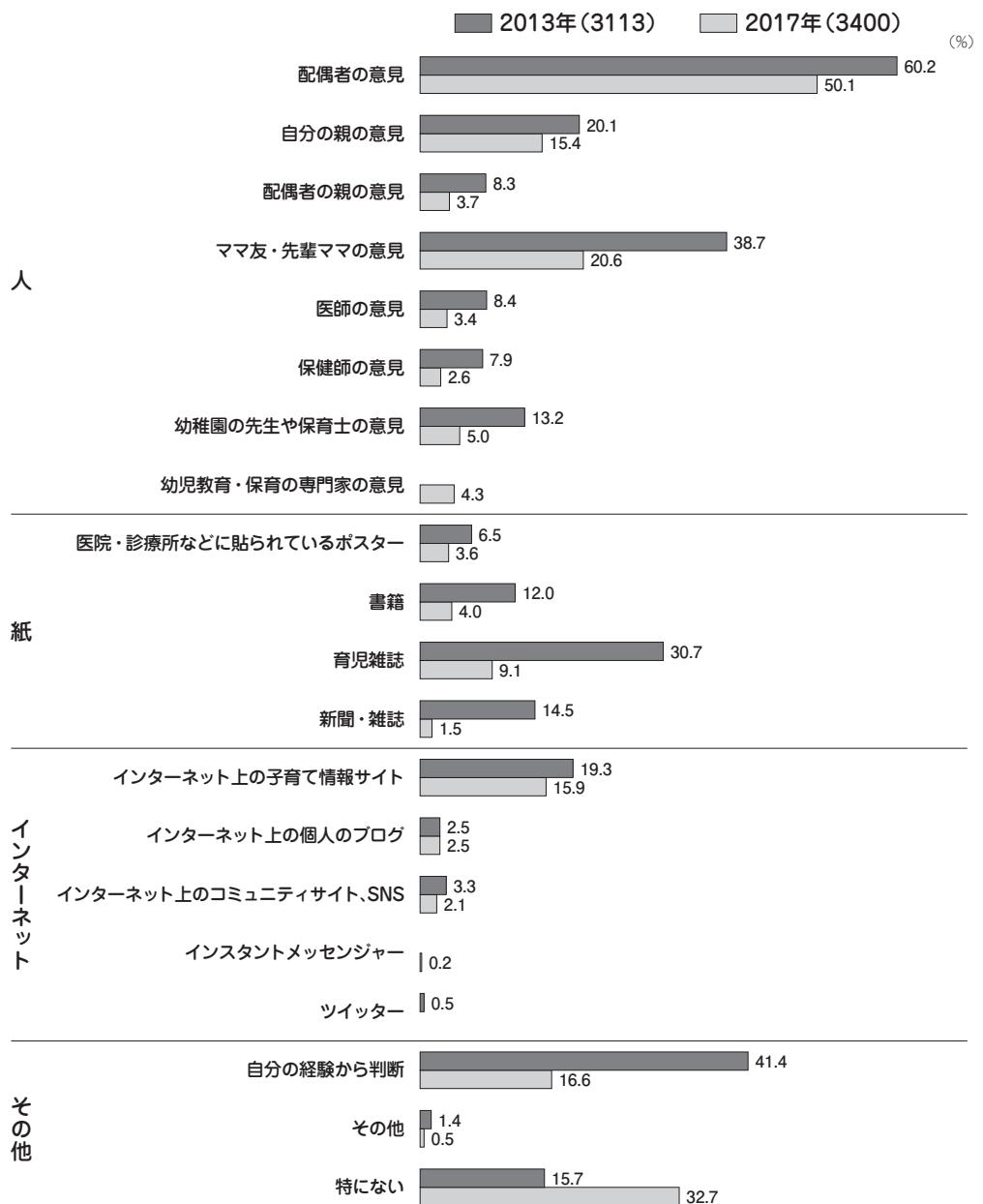
インターネットでは、「インターネット上の子育て情報サイト」が15.9%と多かった。

「インターネット上の個人のブログ」「インターネット上のコミュニティサイト、SNS」、「インスタントメッセンジャー」については、ほとんど参考にされていない。2013年と比較しても変わらない状況であった。

前節で触れたように、ルールを決めることが自体の割合が低くなっているにともない、何かを参考にルールを決めるという行為そのものが減少している可能性がある。

図には掲載していないが、これらの選択率は、子どもの年齢によっても異なっていた。「配偶者の意見」は、子どもの年齢があがるにつれ上昇し、0歳の48.3%から6歳58.6%と高くなっている。これに対し、「自分の親の意見」は、0歳がピークで17.8%、6歳では11.2%と減少している。「配偶者の親の意見」も同様で0歳が5.4%、6歳で2.3%と低くなっている。子どもが生まれた当初は親世代からの意見を参考にしているが、子どもが大きくなるにつれ、配偶者の意見を参考にしている様子がうかがわれる。また、「幼稚園の先生や保育士の意見」や「幼児教育・保育の専門家の意見」を参考にしている割合が一番多かったのは、いずれも4歳(7.0%、5.8%)で他年齢、全体平均より若干高かった。この年代では、園や専門家の意見が参考になるととらえることができる。さらに、0歳が一番多いものが「医師の意見」で4.9%、「保健師の意見」で5.9%、「医院・診療所などに貼られているポスター」で14.4%と他年齢、全体平均より高かった。出産直後は医学的な意見を参考にしていると考えられる。0歳では、

図2-2-1 子どもがデジタルメディアをみたり使ったりするときのルールの参考(経年比較)



注1) 複数回答。

注2) 2013年は無答不明を除く。

注3) () 内はサンプル数。

「書籍」「育児雑誌」「インターネット上の子育て情報サイト」「インターネット上の個人のブログ」「インターネット上のコミュニティサイト、SNS」のいずれも選択率が一番高く、子どもの誕生を機に情報収集を多く行い、それらをもとにルール決めを行っているのかもしれない。

その他自由記述では、育児のテレビ番組やニュースなど、テレビ番組等の情報を参考にする回答があった（4件）。

また、図には掲載されていないが、母親の年代ごとの差が大きいものとして、「自分の親の意見」が挙げられる。29歳以下では19.1%で、40歳以上の12.3%に比較して高い。「配偶者の親の意見」も29歳以下では5.4%で、40歳以上の2.4%の倍以上である。20代は親の意見を参考にしている様子がみられる。一方、「医師の意見」は、29歳以下では2.9%、40歳以上では3.8%であった。母親の年齢が上がるにつれ、医師の意見を参考にしていることがわかる。また、「インターネット上の子育て情報サイト」は、29歳以下では14.1%、40歳以上では17.2%であり、「インターネット上の個人のブログ」は、29歳以下では1.6%、40歳以上では3.0%であった。

若干ではあるが、年代により情報収集の対象が異なる様子がうかがえる。

また、園（幼稚園・保育園・認定こども園）に通っているかどうかで5ポイント以上差がある項目があった（表2-2-1）。まず、「配偶者の意見」は、園（幼稚園・保育園・認定こども園）に通っているが54.1%で、未就園より8.8ポイント高かった。「インターネット上の子育て情報サイト」は、園や施設には通っていない（未就園）が19.2%と高く、どこか園に所属している13.3%と差があった。逆に「自分の経験から判断」については未就園が13.8%と少なく、就園が18.9%と多かった。子どもが園に通っていない場合、インターネット上の子育て情報サイトを参考にし、自分の経験から判断することが就園の場合より少ないということがわかる。

いずれにせよ、スマートフォンやタブレット端末等の新しいメディアの場合、保護者自身の経験だけでなく、使用にまつわる情報も蓄積されておらず、参考になるものが少ないので現状である。新たなデバイスやツールが登場する都度、配偶者やママ友、園の先生とも相談しながらルールを考えていく必要があるのかもしれない。

表2-2-1 子どもがデジタルメディアをみたり使ったりするときのルールの参考（園への所属の有無、経年比較）

		2013	2017	(1844)	(1545)	(%)
	園（幼稚園・保育園・認定こども園）に通っている					
人	配偶者の意見	60.2	50.1	54.1	45.3	
	自分の親の意見	20.1	15.4	14.9	16.1	
	配偶者の親の意見	8.3	3.7	3.3	4.2	
	ママ友・先輩ママの意見	38.7	20.6	21.5	19.7	
	医師の意見	8.4	3.4	2.8	4.1	
	保健師の意見	7.9	2.6	2.0	3.4	
	幼稚園の先生や保育士の意見	13.2	5.0	6.1	3.6	
	幼児教育・保育の専門家の意見	4.3	4.3	4.3	4.3	
紙	医院・診療所などに貼られているポスター	6.5	3.6	2.9	4.5	
	書籍	12.0	4.0	3.5	4.7	
	育児雑誌	30.7	9.1	7.7	10.9	
	新聞・雑誌	14.5	1.5	1.9	1.0	
インターネット	インターネット上の子育て情報サイト	19.3	15.9	13.3	19.2	
	インターネット上の個人のブログ	2.5	2.5	2.3	2.7	
	インターネット上のコミュニティサイト、SNS	3.3	2.1	1.8	2.3	
	インスタントメッセンジャー	0.2	0.1	0.1	0.3	
	ツイッター					
その他	自分の経験から判断	41.4	16.6	18.9	13.8	
	その他			0.5	0.3	0.8
	特にない	15.7	32.7	28.7	37.3	

注1) 複数回答。

注2) 2013年は無答不明を除く。

注3) 網掛けは、5ポイント以上差があるもの。

注4) () 内はサンプル数。